

## 令和6・7年度 市の主な食品ロス削減関係事業一覧

令和6年12月末日現在

基本方針	①食品ロスの発生を抑制			②未利用食品等の有効活用を推進		③食品ロス削減に向けた情報を発信	④食品ロス削減のための連携を強化	
基本施策	①食品ロスに関する意識の醸成	②家庭での食品ロス削減の推進	③事業系食品ロス削減の推進	④未利用食品等の販売や再生利用	⑤未利用食品等の循環による有効活用	⑥食品ロスの認知度向上や削減に向けた積極的な情報発信	⑦国及び北海道との連携	⑧事業者や市民等との連携・協働
事業名	食品ロス削減ポータルサイトを活用した取組紹介	食品ロス削減親子クッキングの開催	飲食店事業者と連携した取組の推進	規格外農産物等の販売による食品ロス削減	フードドライブに関する情報収集と連携	SNSを活用した情報発信／イベント実施等に合わせた啓発	国や北海道との連携	教育機関と連携した食品ロス削減の取組紹介
R6年度事業実績	食品ロス削減ポータルサイトを最新の内容に更新し、フードドライブや食品ロス削減に関するイベント等の情報を掲載した。	調理師と連携し、食品ロスの削減につながるレシピや手法について学ぶ親子クッキングを開催した（8月）。	食品関連事業者に「あさひかわ食品ロス削減協力店」の募集について案内し、応募があった9事業所を協力店として登録するとともに、協力店での食品ロス削減に関する取組内容をポータルサイトで紹介した。	旭川市のホームページ上で「あさひかわ直売マップ」を掲載し、市民等に対して直売所の情報を提供（掲載数29カ所）。	フードドライブを実施する他都市事例を調査した。また、市内のフードバンク団体と連携して、市庁舎においてフードドライブを実施した（6～3月）。	FacebookなどのSNSを活用し、フードドライブの実施について発信した（6月、10月）。エコカーニバル等のイベントや市有施設・商業施設で食品ロスの現状や取組方法などを啓発するパネル展を開催した（14回）。	国や北海道のホームページなどから最新情報を得るとともに、食品ロス削減推進月間などの取組を連携して実施した。	附属旭川小学校5年生の食料生産に関する学習発表会において、食品ロス削減に関する講師として参加した（10月）。食品ロスの削減について学校給食指導資料に掲載し、各学校に配付した（11月）。
R7年度事業計画	ポータルサイトを活用し、食品ロスに関する新着情報や削減に係る取組などについて適宜発信する。	食や調理に関する資格者と連携し、食品ロスの削減につながるレシピや手法について学ぶ親子クッキングを開催する。	引き続き食品関連事業者に対して、食品ロス削減協力店を募集し、登録店舗を増やすとともに、協力店での食品ロス削減の取組をポータルサイトで紹介する。	引き続き、あさひかわ直売マップの運用を通じて直売所等の情報を発信する。必要に応じて情報の追加などを実施する。	他都市事例等を参考に、フードバンク団体や福祉関連部局と連携して、フードドライブに関する周知啓発等の在り方について検討する。	食品ロス削減に関するイベントについて、FacebookなどのSNSを活用し、積極的な情報発信を行う。一年を通じてパネル展を開催する。	国や北海道が把握する食品ロスの現状等の情報を確認しながら、食品ロス削減推進月間の取組など、共同で実施できる取組について連携を図る。	SDGsなど幅広いテーマを取り入れた授業や取組を行う学校が増えてきているため、食品ロスをテーマとして取り組む学校と連携を図る。また、学校給食指導資料の掲載を継続する。
事業の効果・課題	イベント・取組ページや事業者の取組紹介ページの閲覧回数が増加傾向にあり、効果的に情報発信できている一方、閲覧回数が横ばいのページもある。	参加者のアンケート結果から、非常に好評なイベントであり、親子ともに食品ロス削減に対する啓発効果があった。	事業者と連携し、周知啓発することで、事業者、利用者双方に食品ロス削減についての意識が高まり、外食や買い物などでの食品ロスの削減が期待できる。	直売所では市場に出荷されない規格外農産物等も販売されることから、食品ロス削減に寄与した。	フードバンク団体と連携してフードドライブを実施したことで、食品ロスの削減を図ることができた。	SNSの活用により、必要な情報をタイムリーに提供することができる。パネル展は人が多く集まる様々な場所で長期間実施したが、効果測定が難しい。	国や北海道で制作した啓発資材や素材などを活用することができる。	教育機関と連携した取組の実施により、学期からの高い啓発効果が期待できる。
R7年度以降の考え方	現状の取組を継続する。	啓発効果が高いと思われる他の手法についても検討していく。	食品関連事業者への直接訪問などを通じて、協力店の登録店舗を増やす。	現状の取組を継続する。	引き続きフードバンク団体や関係者と連携・協議しながら取組を検討する。	SNSを活用し積極的な情報発信を行う。パネル展は現状の取組を継続する。	現状の取組を継続する。	現状の取組を継続する。